

令和4年度 第2回伊勢市環境審議会 記録概要

1. 日 時 令和4年9月1日（木） 16:00～17:15

2. 場 所 伊勢市役所 本庁舎東館 4-3 会議室

3. 委 員 奥村 有紀子（公共の団体：伊勢商工会議所）
河井 英利（公共の団体：伊勢農業協同組合）
杉田 英男（公共の団体：伊勢湾漁業協同組合）
杉山 謙三（公共の団体：伊勢市総連合自治会）
竜田 和代（公共の団体：伊勢市女性団体連絡協議会）
山村 直紀（学識者：三重大学）
中松 豊（学識者：皇學館大学）
松永 彦次（神宮司廳）
奥田 哲也（三重県南勢志摩地域活性化局）
岡本 忠佳（公募）
上野 早苗（公募）
中村 悦子（公募）
田岡 光生（公募）

【欠席】

高橋 克彦（公共の団体：伊勢市環境会議）
上田 ふき子（公共の団体：伊勢小俣商工会）
平山 大輔（学識者：三重大学）

事務局 藤本 宏（環境生活部 部長）
山本 佳典（環境課 課長）
角谷 晃（環境課 主幹）
西井 有希（環境課温暖化防止推進係 主事）

4. 概要

(1) 開会

(2) 前回審議会の振り返り

○事務局による説明

(3) 議事

① 第3期伊勢市環境基本計画（改定案）について

○事務局による説明

- ・ 資料に基づき、今回改定を予定している部分について説明

○質問・意見等

- ・ 改定案 46 ページの目標指標について、前回は基準値や目標をパーセントで表していたが、今回は回数で表されている。何か意図はあるのか。

⇒これまでは、パーセンテージで表していた。このパーセンテージは、市内に幾つかある小中学校において、企業等の協力を得て環境教育を実施した学校数の割合になっている。例えば、何年生と何年生と何年生が3回行ったという学校があったとしても、1校というカウントになっていた。より多くの子供たちに教育の機会を設けたということが分かるように、学校の割合ではなく回数にしたほうが良いのではと考え、このような目標にした。【事務局】

- ・ どれだけの小中学校が環境教育を実施したかは、回数よりパーセントの方が分かりやすいような気がする。何校中の何校あるかを入れる、もしくはパーセント・回数の両方を入れるようにする方が、どれだけ実施しているかが把握しやすいのではないかと感じる。できれば環境教育は、100%に近いぐらいで実施していただきたい。

⇒両方併記をしたり、進行管理をする段階でパーセントも記載して確認いただいて御意見を頂戴したりする形でよいか。【事務局】

- ・ 力を入れている学校や学年は何回も受講していると思うが、全くそこに到達していない学校は、どのように表現したら一般の方に分かりやすいか、どれだけパーセントを増やしていきたいかということが分かりやすいと思う。

⇒検討させていただく。【事務局】

- ・ 私も回数とパーセントの両方あったほうが良いと思う。環境会議で行っている出前授業の回数はここに入っているのか。

⇒環境会議に行っていたいでいる講座も回数に入れている。同じく回数とパーセンテージの両方ある方がよいというご意見のため、検討しお示ししたい。

【事務局】

• それぞれの小中学校、幼稚園や保育園など、各学校を全部書く必要はないかもしれないが、小学校、中学校、幼稚園等別で何%実施しているかは言えるかもしれない。内容が異なるので、単純な比較になるかどうかは難しいが、環境教育を受けているかどうかはそれで表せるのではないかと思う。

また、これにはなかなか載せられないが、学校別に分かるようになれば、もう少しうちの学校でもやらなければならないと思う学校も出てくるかもしれない。実際はまだまだ少ないため、パーセンテージを当てると数値的にはとても少なくなるので、このような表現になるのかもしれない。徐々に活性化させていかなければならないので工夫が必要。

• 25 ページ、「宅配便の再配達を削減する受け取り方を選択する」とあるが、少し曖昧だと感じる。時間設定などを目指していると思われるが、明確に書いた方が分かりやすい。他にも抽象的な言い方が多いため、考えていただきたい。

⇒宅配便の再配達を削減するための取組として、時間設定をする、家族の中でいつ届くかきちんと伝えておくなどがある。最近では宅配ボックスが増えており、留守の時でも入れてもらうことができる。またコンビニでの受け取り方法もある。三重県ではモデル的に、ある自治体の協力を得ながら、周知PRの取組もしているので、可能であればそういった取組ともタイアップしていきたい。いろいろな方法があるので、それらを記載したい。**【事務局】**

• 20 ページ、市の事務事業における温暖化対策の公用車の燃料使用量の削減のところで「ウェブ会議を活用し、公用車利用の抑制に努めます」とあるが、現実的には難しいし、ウェブ会議にしてどこまで温暖化防止につながるのか少々疑問。コロナのためにウェブ会議をするというのは非常に分かりやすいが、温暖化対策でウェブ会議を推進するというのは、書き過ぎではないかと思う。県や国の方針と横並びで書いているのであればこのままでもよいと思う。

⇒政府の実行計画の中で、ウェブ会議システムの活用やテレワークへの対応も含め職員及び来庁者の自動車利用の抑制を進めるというような表現が書かれており、それを参考にしながら記載した。

これまで、会議に出向くとき、例えば津への出張では、1人で車1台に乗って行くなどということもあったが、それが最近のコロナ禍でウェブ会議になり、ガソリンの使用量が如実に減っている現状もある。また打合せの類については、ウェブ会議も活用しながら行っていることから今回追加した。

• 20 ページの「市の公共施設の新設、改築等にあたっては…」のところ、44 ページの具体的な取組に、「公共建築物について原則として、地域材を優先した木造化や木質化を図ります」と書かれているため、20 ページも、ぼやっとした省エネに配慮した設計という書き方ではなく、木造化・木質化を進めますと書いた方が整合性もとれる。また、伊勢の建物として、木造化・木質化をすることで、町並み作りという意味でもはっきり書いた方がよい。

⇒地元の木材を有効活用することも必要になっているため、この部分については書き方を検討させていただきたい。【事務局】

• みんな自転車を使いましょうという表現が所々出てくる。伊勢市は、歩道がでこぼこしていて自転車で走りにくい。ここで自転車を使いましょうという計画を作って、道路部門でこれを受けて自転車が走りやすい道づくりを進めていただくと非常に良いのではないかと感じた。

⇒自転車のまちづくりについては、23 ページの環境負荷が少ないライフスタイルへの転換の項目に「自転車の利用機会を拡大」としていくと記載している。現在、伊勢市と近隣市町で連携しながら、自転車を活用したまちづくりをしていく協議体もできている。交通政策課が窓口になって進めており、そちらでも議論はされていくと思われるので、連携しながら交通部門における取組を推進していただくような働きかけができればと思う。【事務局】

• 20 ページに「公共交通機関を優先的に利用」という文言があるが、それを 42 ページの分野横断的取組の中にも入れてほしいと思う。県でも、住民には公共交通機関を使ってほしいと言いながら、職員が全然使わない現状がある。乗らないとさらに不便になっていくので、乗ってもらって本数を維持してもらいたいと思う。予算との兼ね合い等事情があることも承知の上だが、職員の公共交通機関の利用促進についても一言入れてほしいと思う。

また、空き家に関しても本当に切実。横断的で施策が色々ありたくさんの部局が関わっていく必要がある。それが人口増に繋がればよいが、人口増につながるとエネルギーがたくさん必要で、その削減が難しい。難しい舵取りになるが、総合政策なので頑張してほしい。

⇒職員の公共交通機関の利用について、市も公共交通機関を利用して出張する数は少ないと思う。各課に呼び掛けをしていければと思っている。計画書の中の書き方については、再度検討する。【事務局】

• 行く先によっては公共交通機関で行けないところもあるので、そういった事情も加味しながら、伊勢市、三重県全体で考えていってほしい。

空き家対策については全国的な問題で、これから先切実な話になるかと思う。

・高い目標で意気込みは十分感じる。国・県は専門職・人材が揃っているが、同じような目標にしていることについて、少ない人材でどう対応していくのかという懸念がある。3ページが一番下、「環境保全の基盤づくり」について、企業や関係機関、大学を含めた連携を図るというのはよく分かるが、環境教育の基盤づくりは「市民のための環境学習の機会や場の提供」だけではないと思う。例えば、NPOやNGO、環境サークル等をいろんな方がつくっていて、「市民のための」という行政からの一方的な市民だけを捉えた発想ではなく、「巻き込む」というような表現の中で、市民、関係者、特に大学等をうまく巻き込んで、機会の提供や教育をしていただき、最終は人材の育成にもっていかなければならない。「市民のための環境学習」というのが、市民だけをターゲットにしているように感じたので、文言を工夫していただければありがたい。

⇒それぞれの立場で主体的に取り組まなければいけない中で、こちらの熱意がきちんと伝わるように修正したいと思う。【事務局】

・伊勢市という観光客が来るような場所なので、市民だけでなく、県全体を、日本全体をとというような感覚で議論をしていかなければならないと思っている。

・自転車の駐輪に関して、電動自転車のバッテリーの盗難が都会では多いようである。自転車を鍵で固定できる駐輪場が少ないように思う。サイクリングでの観光地めぐり等も実施されており、自転車を有意義に使える環境を作っていく必要もあると感じた。

⇒自転車活用の協議体に審議会での意見を伝え、連携して取り組んでいきたいと思う。【事務局】

・20ページのウェブ会議について、公用車の燃料使用削減という大きな塊の中だったら、この形で入っていてもよいと思う。

空き家対策について、人が住まなくなった途端に草がひどくなる。人口も減っており、だんだん空き家になる率が高いのであれば、防犯のためにも市が対策を考えた方がよい。隣近所で手を付けるようなことも考えた方がよいかと思う。

⇒ウェブ会議については、積極的に取り組んでいきたい。

2点目の空き家になり管理が出来なくなってくる点については、計画には反映しきれないところがあるが、年々増加しているし、市役所への相談も増えている。個人の財産権が非常に強いのが日本の特徴で、自治会と連携し、できる方法を個別に考えているのが現状。自治会によっては、独自で取り組んでいるところもあり、今後も荒れてしまうところが少しでも少なくなるように取り組んでいきたい。【事務局】

・まちづくり協議会で、環境の委員会に入っており、ここ3年ぐらいは犬の糞のマナーアップキャンペーンを年1回ずつしている。まちづくりの事務局で国土交通省に申請をしていただき、勢田川の右岸・左岸の24か所に看板を設置したら、糞害がとてもなくなくなった。それに向かってポスターやチラシ作りをしているが、それも同じで、まち協等を市が押しつけないとやりづらいのではないかと。

空き家になった隣を少し気にかけて、みんなでまちを綺麗にしよう、ということを広報で声掛けするような市の態度があってもいいと思う。ただ「空き家が増えてきたのでその対策をしています」ではなく、空き家がどんどん増えると環境が悪くなっていくので、財産権を侵害するという考え方もあるが、みんなに住みよい環境をつくろうという意味から、そこを超えて実施しようという雰囲気づくりを、市の体制で広報や環境活動に広げていって、みんなで取組を考えるような政策を進めていただくと、隣もきれいにしやすいと思う。隣をきれいにしても罪悪感が無いような雰囲気づくりを市が考えていただき、進めることが、これからの人口減少にあたっては大事なことになると思う。

⇒非常に立ち位置が難しい問題だが、自治会に限らず、実際に空き家を身近に感じている方への支援、後押しができるような対応をしていきたいと思う。【事務局】

・まち協等が活動をしようとする場合、それができるような手続や方法がないか市の方で考えられたら、もう少し各自治会で動きやすくなると思うので、可能であれば検討いただければと思う。

・国の政策があり、県の政策があり、市の政策がある。目標値はそれで決まってくるかと思うが、自治体によってやり方が違ってくると思う。伊勢市には伊勢市の事情があり、それに合わせた施策を考えることが重要だと思う。お気付きの点があれば、またご意見をいただきたい。

(4) その他

○事務局より今後のスケジュールについて説明